

山田町の観光復興に向けた課題

目指すべき方向性

- 観光を通じて、山田町の地域経済が潤うことが必要である。
- 観光を通じて、生活の質が維持される（高まる）ことが必要である。
- 観光を通じて、山田町民の活躍する場ができることが必要である。

共通課題

山田らしい観光の姿を明確にすることが必要である	山田の看板商品をつくる必要がある。 山田への来訪、体験を通じて「山田ファン」を育てることが必要である。 山田の地域資源を大切にすることが必要である。
地域経済とのつながりを強化することが必要である	地場産業を活用することが必要である。 利益が出る仕組みをつくる必要がある。 宿泊型の観光地を目指す必要がある。
民間事業者や住民が主体となった取り組みを推進することが必要である	民間中心で取り組む必要がある。 町ぐるみで取り組む必要がある。 山田町民が山田を学ぶ必要がある。

個別の課題

体験観光 エコツーリズム	商品開発に関すること	高単価少人数をターゲットとしたプログラムの開発が必要である。 ／新たなアクティビティの開発が必要である。
	ブランド力に関すること	山田でのカヤックのイメージが定着していない。
	受入体制に関すること	カヤックへの参加のハードルを下げる必要がある。／トイレの整備が必要である。
	情報発信に関すること	モデルコースの作成・発信が必要である。
	異業種交流に関すること	かきとプログラムの連携が必要である。
物産	商品開発に関すること	山田としての柱となる新商品の開発が必要である。／観光客のニーズに合わせた商品開発が必要である。
	ブランド力に関すること	山田産であることのPR強化が必要である。
	流通や販売に関すること	海産物の安定的な確保が難しい。／新たな販路開拓が必要である。
	異業種交流に関すること	生産者との連携を深める必要がある。／観光との連携を深める必要がある。
	マーケティングに関すること	市場の把握が不十分である。
飲食、グルメ、宿泊	商品開発に関すること	山田の柱となるメニューの開発が必要である。
	食材の確保に関すること	山田産品の安定的な確保が難しい。／一番おいしい時期のかきが入手できない。／かきの品質が時期によって違う。
	異業種との連携に関すること	連携に向けた仕組みやアレンジが必要である。
	提供の仕方に関すること	「食」に関するツーリズムの検討が必要である。
	宿泊需要に関すること	復興需要終了後の需要が心配である。
	宿泊容量に関すること	観光客を受け入れるための宿泊容量が不足している。
誘客 プロモーション	誘客方法に関すること	来訪理由の創出が必要である。
	受入体制に関すること	受入体制の充実が必要である。
観光施設	既存施設の効果的な活用に関すること	復興かき小屋のオフシーズン対策が必要である。／顧客の新規開拓が必要である。／地元の子供たちの利用促進が必要である。／ビニールハウスの整備の充実が必要である。
	新規施設の必要性に関すること	観光客向けの行き先が思いつかない。
観光案内・交通	案内看板の整備に関すること	案内看板の整備充実化が必要である。
	「人」による案内や人材育成に関すること	多様な観光案内が必要である。
	一次交通アクセスに関する課題	消費地からの交通手段の充実化が必要である。
	二次交通アクセスに関する課題	交通拠点からの交通手段の充実化が必要である。
	三次交通アクセスに関する課題	町内周遊の交通手段の充実化が必要である。

YAMADA TOWN

山田町観光復興ビジョン 概要版

観光復興ビジョン策定のねらい

東日本大震災により甚大な被害を受けた当町において、観光的な魅力を再構築し、観光客の誘客につなげていくことが急務となっている。山田町観光復興ビジョン（以下、本ビジョンと言う。）は、観光面から山田町の震災復興のあるべき姿を検討し、町民・地域組織・関係団体・事業者等の協力・連携による観光まちづくりの指針等を定め、効果的に観光復興を推し進めることを目的とする。

観光復興ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、第 9 次山田町総合計画の中に位置づけられ、山田町復興計画をはじめとする他の計画と連携しながら推進するものである。

計画期間

本ビジョンは、平成 28 年度からの 5 年計画とする。計画期間終了前年度より、計画の成果と課題の見直しを図ることとする。

山田町の観光復興の基本理念

山田町の観光復興において、常に立ち返るべき最も重要な理念として、以下の 3 点を定める。

地域経済が潤うことに貢献する観光であること	山田町のあらゆる産業に、観光を通じて、経済効果を産み、地域経済の向上に繋げること。
生活の質が高まることに貢献する観光であること	山田町民の日常の暮らし、文化、環境と穏やかに共存し、観光を通じて、その質を高めていくこと。
町民の活躍機会の創出に貢献する観光であること	山田町民 1 人 1 人が有する個性や技術を大切に、観光を通じて、活躍の機会を創出すること。

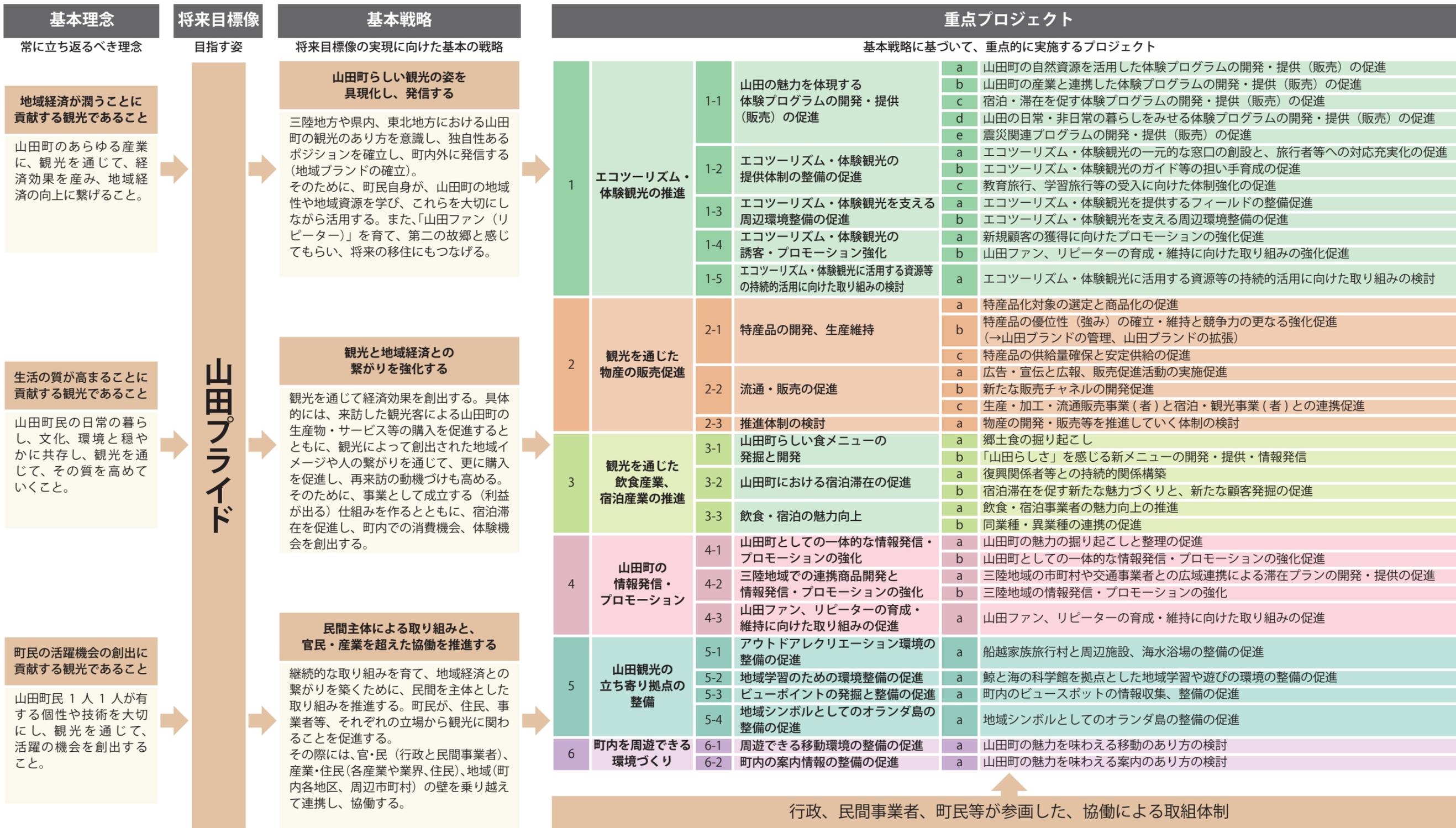
山田町の観光の将来目標像

山田町が、本計画を通じて実現を目指す、5 年後の将来目標像として、以下を定める。

山田プライド

우리가ふるさと山田の、自然や暮らし・文化、地場産業の魅力を、町民一人ひとりが自信を持って伝えることで、町内外の交流を創出する観光を目指します。

山田町観光復興ビジョン“山田プライド”の体系



山田町観光復興ビジョンについて

本ビジョンは、観光関係機関・団体、事業者等からなる12名の策定委員(うち一般公募2名)、15名のワーキング委員が、1年間の議論を重ねて検討したものである(策定委員会:全3回、ワーキング会議:全7回、専門部会:3部会×5回)。

